

部局名

農学部 植物生産環境科学科

担当: 鉄村 琢哉

テーマ

果樹の苗木をつくる



果樹の苗木の多くは接ぎ木されています。その理由は多くの果樹が挿し木できないことです。接ぎ木は2つの植物をつなげて1つにすることですが、根を持つ「台木」と呼ばれる部分は、台木に接がれる「穂木」の成長や果実にも影響を及ぼします。特殊な台木により、小型化した果樹や美味しい果実をつくることができます。しかし、その優秀な台木は挿し木などで増やす必要があるため、私たちは挿し木について研究しているのです。



詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-agrenv/post-51.html>



### 挿し木中のカキ台木

葉をつけたカキの枝は、根が出てくるまでの1~2か月間、水を十分吸うことができないので、ミストと呼ばれる非常に細かい霧が頻繁に発生し、高湿度状態を保ったビニルハウスの中に置く必要があります。



### 樹を大きくしない台木に接ぎ木された10年生カキ樹

この小さいカキ樹は単位体積当たりの収穫量が増える上、果実のビタミンC含有量が増えることもわかっています。



### 挿し木発根したクリ

クリは挿し木発根が困難な果樹ですが、台木が原因による幼樹の枯死が問題になっており、その解決のため、優良台木の挿し木方法の開発が望まれています。